

問6 北海道では、児童養護施設などに入所している子どもや様々な事情で声を上げにくい子どもからも意見を聴いていきたいと考えています。どのような手段を用いれば意見を出してもらいやすいと思いますか。

【概要版】

1 周知について

- ・ 自分の意見を伝えて良いと思えるように、YouTubeやInstagramなどの公告やポスターなどを利用して認知度を上げる必要がある。
- ・ 意見を聴いても反映されなければ意味がないので、子どもの意見でこのような変化があったとまずは周知する。
- ・ 子どもに声を上げる権利があることを知らせる必要がある。

2 方法について

【アンケートやBOX（目安箱）の設置】

- ・ アンケートの配布
- ・ 道庁のHPにわかりやすいアンケートページを掲載する。
- ・ 施設や学校、市民会館などにBOX（目安箱）を設置する。

【施設職員や信頼できる大人等の協力】

- ・ 子どもの周囲の大人から普段の会話から見える課題などを聞いてみても良い。
- ・ 施設の職員や保育士等に協力を求める。（個別指導や会話の際に聞き出すなど）
- ・ 子どもが信頼している人が意見を聴き、子どもと行政の仲介役を担う。
- ・ 施設にカウンセラーなど専門家を配置。
- ・ 職員ではない第三者との面談の機会をつくる。（定期的）

【質問・回答方法など】

- ・ アバウトな質問よりも少し狭い質問の方が良い。
- ・ その場で回答する以外に事前に考える時間のある形式があっても良い。
- ・ 選択式にすることで、自分の意見を伝えやすくなるよう工夫する。
- ・ 匿名でも答えられるようにする。

3 環境について（行政との直接的なやり取り）

- ・ 事前に告知した上で、実際に出向いて直接意見を伺う。自分の過ごし慣れたところの方が落ち着いて考えられるのではないかな。
- ・ 普段生活していて、信頼できる人がいる場所の方が安心して声を発せられる。
- ・ ある程度関係を築いてから意見を聴く。
- ・ 調査を年度末にするなど、実際に問題が浮き出てきそうなタイミングで聴く。
- ・ LINEなど身近にあるものが使えると周囲に相談をしていることが伝わりにくいこともあり、相談のハードルが下がるのではないかな。
- ・ お菓子を食べながらなど、雑談から始めてみる。
- ・ 子どもと担当者がダイレクトにつながる仕組みが必要。